

繰り上がりのある足し算 (くりあがりのひっさん) やり方と書き方

たしざんのひっさんで、ふたつのかずを たすとき、もしも「1の くらいのかず」が10を こえてしまったら どうすればいいのかな？

くりあがりとは

足し算を 筆算(ひっさん)で 計算(けいさん)するとき、たてに 位 くらいを そろえて 計算するんだっけ。

でも、足し算を するとき、「くりあがり(繰り上がり)」が あるときがあるんだ。

「くりあがり」とは、「くる(繰る)」と「あがる」という ことばから できているよ。

「くる(繰る)」は、「むこうに おくる」という いみの ことばなんだ。

「むこうに おくられて、あがる」という ことだから、「レベルアップする」と イメージすると いいかもしれないね。

算数の 数字が レベルアップするのだから、そう、「一の位」が「十の位」に レベルアップするんだよ。

足し算の どんなときに 一の位が 十の位に レベルアップする 「くりあがり」が おきるのか みてみよう。



もんだい

$28 + 17$ を 計算しましょう。

$28 + 17$ の 足し算は、どのように すれば いいかな。

いままでとの ちがいは、「一の位の 足し算が、 10 を こえてしまう」ということ。

たしかに、 10 を こえてしまうのは いままでと ちがうけれど、「ふたけたの 足し算」というところは おなじ。

だから、位ごとに 分けて 計算すれば いいんだね。

位ごとに 分けて 計算すると、

$$\text{(一の位)} \quad 8 + 7 = 15$$

$$\text{(十の位)} \quad 20 + 10 = 30$$

だね。

この「一の位で出た答え」と、「十の位を合わせて出た答え」を あわせれば、ぜんたいの 答えになるね。

計算してみよう。

$$15 + 30 = 45$$

これが こたえだね。



一の位が 10 を こえてしまっても、位ごとに 分けて、じゅんばんに
ひとつずつ 足し算を すれば、 だいじょうぶだね。

でも、 これって たくさんの 計算をしないと いけないのが ちょっと
たいへんだよね。

分けて 計算しなくても すぐ下に 答えを 書く 筆算の しかたは な
いのかな？

では、じっさいに やってみよう。

$$\begin{array}{r} 28 \\ + 17 \\ \hline \end{array}$$

筆算のポイント

筆算は、右がわを
そろえて 書こう。

8+7=15 だね。
この15は、どこに書くのかな？

一の位から 計算をするから 8+7=15 だね。
でも、「あれ？ この15は どこに書けば いいんだろう？」と おもっ
て しまうよね。

筆算（ひっさん）のとき、 1マスには 1つの 数字を 書くよ。 だか
ら、 このままだと 15が 書けなく になってしまうね。



そう、これが「繰り上あがり」が ひつように なるときなんだ。

このように、 それぞれの 位くらいごとに 計算したとき、10を こえる数字に なったときに、「繰り上あがり」を考えるんだね。

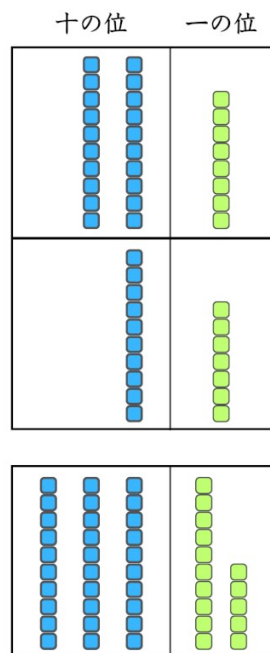
では、さっそく 繰り上がった 数字を どこに かくのか がくしゅうしよう。

筆算の繰り上がりの かきかた

くり上あがりの考え方

繰り上あがりの ある足し算 と言っても、 筆算ひっさんの 書き方は 今までと 同じだよ。

10のかたまり と 1のばら に分けて、 計算を しよう。



$$\begin{array}{r}
 28 \\
 + 17 \\
 \hline
 \end{array}$$



一の位の 計算は $8 + 7 = 15$ だね。
 10のかたまりが 作れたので、「レベルアップ」したね。
 レベルアップした 1つ分の 10のかたまりを 十の位へ もっていこ
 う。

10のかたまり が できたので
 十の位に 1繰り上げよう

$$\begin{array}{r} 28 \\ + 17 \\ \hline 45 \end{array}$$

一の位の 計算が 10を こえるときは、 十の位に 1繰り上あげるん
 だね。

繰り上がりは レベルアップだからね。ひとつ上の 位に 上がるよ。

繰り上がりの計算の順序（じゅんじょ）

繰り上がりのある 足し算の 筆算をするときは、計算の 順番（じゅんじょ）が たいせつだよ。

たとえば、 $46 + 25$ の 計算を してみよう。

筆算ひっさんの 計算を するときは、 かならず 一の位から 計算する
 よ。



一の位は、 $6 + 5 = 11$ だね。

ここで ポイント。繰り上あがりがあるときは、 忘わすれないように小さく「1」と 書いておこう。

次に、 十の位を 計算するよ。

でも十の位を 計算するときは、 さっき繰り上あがった「1」を 忘れないように しないと いけないね。

なので、 $4 + 2 + 1 = 7$ になるよ。

図で みてみよう。

一の位から 計算するよ

$$\begin{array}{r} 46 \\ + 25 \\ \hline \end{array}$$

➔

十の位を 計算するよ

$$\begin{array}{r} 46 \\ + 25 \\ \hline 71 \end{array}$$

繰り上がりの1を
忘れないように 書こう。

$46 + 25$ を 筆算で 計算すると 71 に なったね！

どうして「一の位」から さきに 計算しなくては いけないのかという
と、だって、もし さきに 「十の位」を 計算してしまっ、つぎに



「一の位」を計算したときに、繰り上がりで「1」がふえたら、十の位は「もう計算が終わっちゃったよ。いまさら1ふえても、こまっちゃうなあ・・・」と なるよね。

そうならないように、小さい位から計算することで、「繰り上がるなんて、聞いてないよ!」と ならないように しているんだね。

まとめ

筆算（ひっさん）の計算のしかたは、今までと同じだったね。

それぞれの位を たてに そろえて 計算をすれば いいんだ。

でも、計算の答えが10をこえて しまうとき、繰り上がり を 考えないといけないね。

筆算で 書くときは、一の位から 計算を するよ。

繰り上がりを 忘れないように、小さく1と 書いておけば いいんだね。

繰り上がりのある 足し算の ひっさん まとめ

- ・一の位から じゅんばんに 計算する
- ・繰り上がったら、小さく「1」と 書いておく。
- ・十の位を 足し算するときには、繰り上がった「1」を 忘れないように 足すように ちゅういしよう。

